

講義要項

科目	基礎解剖生理学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・60時間
概要	人体の構造と機能および生命維持のメカニズムを学び、解剖学・生理学などの基礎医学について円滑に学習が進められるよう、人体理解の基礎を身につける。		
目標	1. 人体の構造について名称・位置が説明できる 2. 人体において重要な役割を持つ部分について、その機能が説明できる 3. ある行動について、働いている部位・名称と機能を総合的に考察できる		
教科書	サイエンスビュー生物総合資料 実教出版 日本人体解剖学 上下 南山堂 生理学テキスト 文光堂 基礎運動学 医歯薬出版株式会社		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	細胞の一般的構造	講義
2	核の構造とDNA	講義
3	遺伝子とタンパク合成	講義
4	生体膜の構造	講義
5	膜を通した物質輸送・膜電位の発生①	講義
6	膜を通した物質輸送・膜電位の発生②	講義
7	細胞のシグナル伝達	講義
8	細胞骨格と細胞運動①	講義
9	細胞骨格と細胞運動②	講義
10	組織の成り立ち	講義
11	人体の基本構造・構成と系統別の機能	講義
12	身体機能と構造①(神経系の基礎) 神経の構造と働き	講義
13	身体機能と構造①(神経系の基礎) 神経の構造と働き	講義
14	身体機能と構造①(神経系の基礎) 運動単位	講義
15	身体機能と構造①(神経系の基礎) 反射・反応	講義
16	身体機能と構造①(神経系の基礎) 反射・反応	講義
17	身体機能と構造①(神経系の基礎) 感覚	講義
18	身体機能と構造①(神経系の基礎) 感覚・伝導路	講義
19	身体機能と構造②(循環器系) 構造と働き	講義
20	身体機能と構造②(循環器系) 構造と働き	講義
21	身体機能と構造③(呼吸器系) 構造と働き	講義
22	身体機能と構造③(呼吸器系) 構造と働き	講義
23	身体機能と構造④(運動器系) 構造と働き	講義
24	身体機能と構造④(運動器系) 筋の特性	講義
25	身体機能と構造⑤(運動器系) 運動制御のメカニズム	講義
26	身体機能と構造⑥(運動器系) 運動制御のメカニズム	講義
27	身体機能と構造⑦(消化器・泌尿器系) 構造と働き	講義
28	身体機能と構造⑦(消化器・泌尿器系) 構造と働き	講義
29	身体機能と構造⑧(代謝) エネルギーとは	講義
30	身体機能と構造⑧(代謝) エネルギー産生メカニズム	講義

講義要項

科目	解剖学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・2単位・60時間
概要	<p>疾病・障害を診るためには、人体の正常な構造を理解する必要がある。解剖学では、特に循環器・神経系の構造について学ぶ。さらに、呼吸器・消化器・泌尿生殖器・内分泌に属す器官の構造を学び、これらの器官が人間の動きの中でどのような役割を果たしているかを併せて学習する。</p>		
目標	<p>循環器・神経系の構造を各論的に学ぶと共に、内臓に属している各器官の構造と機能的役割を把握し、人体機能に関する知識を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器系に属している器官の名称をあげ、構造を説明できる 2. 神経系に属している器官の名称をあげ、構造を説明できる 3. 内臓に属している各器官の名称をあげ、構造を説明できる 		
教科書	<p>日本人体解剖学 上下巻 改訂19版 南山堂 組織学総論 東京農工大学出版会</p>		
参考書			
学習評価	<p>筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。</p>		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	解剖学総論(人体の構成;細胞・組織・器官・系統)	講義
2	循環器系①(動脈、静脈、毛細血管、血液、組織液、リンパの関係)	講義
3	循環器系②(心臓の構造)	講義
4	循環器系③(心臓の構造)	講義
5	循環器系④(心筋の特性、心臓の神経)	講義
6	循環器系⑤(動脈系、静脈系、リンパ系の構造)	講義
7	循環器系⑥(動脈系、静脈系、リンパ系の構造)	講義
8	呼吸器系①(総論、肺循環)	講義
9	呼吸器系②(上気道に属している器官の構造)	講義
10	呼吸器系③(下気道に属している器官と肺の構造)	講義
11	消化器系①(口腔内での消化、咀嚼)	講義
12	消化器系②(食道と胃の構造)	講義
13	消化器系③(小腸と大腸の構造)	講義
14	消化器系④(肝臓と胆嚢、膵臓の構造)	講義
15	消化器系⑤(肝臓と胆嚢、膵臓の構造)	講義
16	泌尿器系①(総論・腎臓の構造)	講義
17	泌尿器系②(尿管、膀胱、尿道の構造)	講義
18	生殖器系①(男性生殖器の構造)	講義
19	生殖器系②(女性生殖器の構造)	講義
20	内分泌系(内分泌腺の構造と構成)	講義
21	神経系①(中枢神経系の構造)	講義
22	神経系②(中枢神経系の構造)	講義
23	神経系③(中枢神経系・伝導路)	講義
24	神経系④(中枢神経系・伝導路)	講義
25	神経系⑤(中枢神経系・伝導路)	講義
26	神経系⑥(末梢神経系の構造)	講義
27	神経系⑦(末梢神経系・頸神経叢、腕神経叢)	講義
28	神経系⑧(末梢神経系・腰神経叢、仙骨神経叢)	講義
29	断層解剖①	講義
30	断層解剖②	講義

講義要項

科目	運動機能解剖学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義2単位・60時間
概要	<p>「解剖学は人体の構造を究める学問であり、医学基礎中の基礎をなす学問である。」 作業療法では、疾病や障害を診る(治療する)上で、 まず人体の正常な形態と構造、機能を理解していることが重要である。 運動機能解剖学では、運動を担う骨・靭帯・筋の名称と構造、機能的役割について学習する。 また、運動の指令を行う神経系等の解剖学と合わせ総合的な人体の構造の理解が必要である。</p>		
目標	<p>人体の骨・靭帯・関節・筋について。 1. 名称と位置関係が説明できる 2. 形態と構造が説明できる 3. 機能的役割が説明できる</p>		
教科書	<p>日本人体解剖学 上(下)巻 改訂19版 金子丑之助 南山堂 基礎運動学 第6版 中村隆一 医歯薬出版株式会社</p>		
参考書	<p>体表解剖学で使用する教科書など</p>		
学習評価	<p>筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。</p>		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション、人体の構成(全体像の把握)総論1:運動の基本・軸	講義
2	総論2:骨・関節の構造と機能	講義
3	総論3:筋の構造と機能	講義
4	骨・関節1:脊柱・頸部	講義
5	筋1:頸部の筋・背部の筋	講義
6	骨・関節2:胸腰椎・胸郭	講義
7	筋2:胸部の筋	講義
8	骨・関節3:上肢帯	講義
9	筋3:上肢帯の筋	講義
10	腕神経叢	講義
11	骨・関節4:肩関節・上腕	講義
12	筋4:肩関節・上腕の筋	講義
13	骨・関節5:肘関節・前腕	講義
14	筋5:肘関節・前腕の筋	講義
15	骨・関節6:手関節・手部①	講義
16	筋6:手関節・手部の筋(手外在筋)	講義
17	筋7:手部②	講義
18	筋7:手部の筋(手内在筋)	講義
19	体幹・上肢まとめ	講義
20	骨・関節8:腹部 骨盤	講義
21	筋8:腹部、骨盤の筋	講義
22	骨・関節9:股関節・大腿	講義
23	筋9:股関節・大腿の筋	講義
24	筋9:股関節・大腿の筋	講義
25	骨・関節10:膝・下腿③	講義
26	筋10:膝・下腿の筋	講義
27	骨・関節11:足部・足趾②	講義
28	筋11:足部・足趾の筋	講義
29	骨・関節12:頭蓋の骨	講義
30	筋12:頭蓋・顔面の筋、まとめ	講義

講義要項

科目	体表解剖学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	通期・実習1単位・45時間
概要	模型と人体に実際に触れて、心臓・主要な動脈、末梢神経、骨格筋、骨、関節・靭帯の触診をした上で説明できる。 頭頸部・脊柱・四肢の骨格筋の起始と停止・走行・作用・支配神経・髄節について位置関係を解剖学と比較、確認する。 併せて、横断面と骨格筋・骨・末梢神経・血管の位置関係を確認する。作業療法における視診・触診の目的を捉えた上で実施できる。		
目標	1. 体表解剖学を学習する意義・目的を説明することができる 2. 体表解剖学を学習する基本的事項(姿勢・体位・触診方法)を理解し説明できる 3. 触診(技術提供)を行う際の医療人として構え・態度を理解し、対象者に敬意をもって実践できる 4. 人体の骨格を理解し、骨の部位(骨指標)・関節・靭帯の位置を捉えられる 5. 対象者の骨の部位(骨指標)・関節・靭帯を適切に触診することができる 6. 人体の骨格を理解し、各筋の位置・走行を捉えられる 7. 対象者の各筋を適切に触診できる		
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診技術(上肢)(下肢・体幹) MADICALVIEW 日本人体解剖学(上下巻) 改訂19版 南山堂 基礎運動学 第6版 医歯薬出版		
参考書			
学習評価	筆記試験及び実技試験ともに60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	①服装:Tシャツ・ハーフパンツ・運動靴等動きやすく体表の観察・触診がしやすいもの。 ②身だしなみ:髪はまとめる、つめを切る、アクセサリーははずす、ヒールのある靴は不可。 ③該当項目の解剖学ならびに触診方法(教科書)の予習は必須とする。 ④技術修得の為に、練習が必要である。必ず復習を行うこと。 ※対象者に不快感を与えない、安全を守る為に、①②が守れない場合には授業に参加することはできない。		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション(目的・目標)・触診の基本	実習
2	上肢の骨①	実習
3	上肢の骨②	実習
4	上肢の骨③	実習
5	上肢の骨④	実習
6	上肢の骨／関節／靭帯⑤	実習
7	下肢の骨①	実習
8	下肢の骨②	実習
9	下肢の骨③	実習
10	下肢の骨／関節／靭帯④	実習
11	頭部・体幹の骨①	実習
12	頭部・体幹の骨②	実習
13	形成的評価① 上肢・下肢・頭部・体幹の骨／関節／靭帯	実習
14	形成的評価① 上肢・下肢・頭部・体幹の骨／関節／靭帯	実習
15	上肢の筋①	実習
16	上肢の筋②	実習
17	上肢の筋③	実習
18	上肢の筋④	実習
19	上肢の筋⑤	実習
20	上肢の筋⑥	実習
21	上肢の筋⑦	実習
22	形成的評価② 上肢の筋	実習
23	形成的評価② 上肢の筋	実習
24	下肢の筋①	実習
25	下肢の筋②	実習
26	下肢の筋③	実習
27	下肢の筋④	実習
28	体幹・頸部の筋／動脈	実習
29	形成的評価③ 下肢・体幹・頸部の筋／動脈	実習
30	形成的評価③ 下肢・体幹・頸部の筋／動脈	実習

講義要項

科目	解剖見学実習	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・実習1単位・45時間
概要	<p>骨関節系において細胞、筋、骨、関節の構造と機能を学んだ。 神経系において中枢神経系と末梢神経系、感覚器、口腔・咽頭と発声器官の各構造と各機能、および嚥下機能を学んだ。 内臓諸器官系において呼吸器系、循環器系、脈管系、消化器系、内分泌系、泌尿生殖器系の各構造と各機能、血液の機能と免疫機能、体温調節機構等を学んだ。 この実習では御献体を通じて位置関係や構造を立体的に捉えることを目的としている。</p>		
目標	<p>1. 前期で学習した解剖学の知識と事前学習をもとに、教科書では確認しにくい事項を中心に学習する ※多臓器との位置関係・特徴、神経・脈管の入り込み方、筋・腱・骨の連結、表層・深層の位置関係等を説明できる 2. 御献体を通じ、人の体をあずかる医療従事者であるという自覚を持った行動ができる</p>		
教科書	日本人体解剖学 改訂19版 南山堂		
参考書	基礎運動学 第6版 補訂 医歯薬出版		
学習評価	事前セミナー、実習参加、事後セミナーを総合的に評価し、合格とする(平常の学習態度及び出席状況等を考慮する)。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	頭頸部・脊柱・四肢の骨格筋の起始と停止・走行・作用・支配神経・髄節 骨4)	演習・実習
2	断層解剖: 四肢の横断面と骨格筋・骨・末梢神経・血管の位置関係 骨6)	演習・実習
3	中枢神経系の区分、構造、主要上行路、下行路 神1)	演習・実習
4	末梢神経系(体性神経系と自律神経系)の区分と構造、脳神経の種類 神2)	演習・実習
5	皮膚、外耳・内耳・中耳、眼球・副眼器・網膜、口腔咽頭、発声器の各構造 神3)	演習・実習
6	断層解剖: 脳・脊髄の横断面と位置 神4)	演習・実習
7	心臓と動脈系、静脈系、リンパ系の構造 内1)	演習・実習
8	肺と呼吸器系の構造 内2)	演習・実習
9	肝臓と胆嚢、消化器系の構造 内3)	演習・実習
10	泌尿器系・生殖器系の構造 内4)	演習・実習
11	内分泌系の構造と構成、断層解剖(体幹横断面と内臓諸器官の位置関係)内5)	演習・実習
12	骨関節系デモンストレーション	演習・実習
13	内臓諸器官系デモンストレーション	演習・実習
14	内臓諸器官系デモンストレーション	演習・実習
15	神経系デモンストレーション	演習・実習
16	神経系デモンストレーション	演習・実習
17	人体の構造実習1: 骨学実習と筋肉学実習(標本または模型)骨7)骨8)	演習・実習
18	人体の構造実習2: 体表解剖: 心臓、主要な動脈・末梢神経・骨格筋・骨・関節・靭帯の触診	演習・実習
19	神経系の構造実習: 神経系、感覚器、口腔・咽頭、発声器官の各実習(模型等使用) 神5)	演習・実習
20	内臓諸器官系の構造実習: 内臓諸器官(模型等使用)など 内6)	演習・実習
21	骨関節系振り返り	演習・実習
22	骨関節系振り返り	演習・実習
23	内臓諸器官系振り返り	演習・実習
24	内臓諸器官系振り返り	演習・実習
25	神経系振り返り	演習・実習
26	神経系振り返り	演習・実習
27	情意領域(理学・作業療法に求められる倫理と哲学)	演習・実習
28	情意領域(理学・作業療法に求められる倫理と哲学)	演習・実習

講義要項

科目	植物生理学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	<p>生理学は、人体の構造がどのように働いて生命を維持しているかを学ぶ学問で、解剖学と対をなしており、病気を理解する為にも必要な基礎学問である。 植物生理学では、人体の「植物性器官」である循環、呼吸、消化、内分泌、排泄の諸器官の働きについて学ぶ。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液の成分とその働きについて説明できる 2. 心臓の構造とその働き、心電図について説明できる 3. 血管の構造と循環のしくみについて説明できる 4. 呼吸器の働き、ガス交換とガス運搬のメカニズムについて説明できる 5. 食物の消化・吸収のメカニズムと、その調節について説明できる 6. 内分泌器官、ホルモンの種類と働きについて説明できる 7. 腎臓における濾過と再吸収のメカニズムおよび酸塩基平衡について説明できる 8. 栄養素の代謝、熱発生と体温調節のメカニズムについて説明できる 		
教科書	生理学テキスト第7版 大地陸男著 文光堂		
参考書	サイエンスビュー生物総合資料 実教出版 ギャノン生理学 原書第24版 丸善 標準生理学 第8版 医学書院		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	血液	講義
2	血液	講義
3	心臓	講義
4	心臓	講義
5	循環	講義
6	循環	講義
7	呼吸	講義
8	呼吸	講義
9	消化と吸収	講義
10	消化と吸収	講義
11	内分泌と生殖	講義
12	内分泌と生殖	講義
13	腎機能と酸塩基平衡	講義
14	腎機能と酸塩基平衡	講義
15	代謝と体温	講義

講義要項

科目	動物生理学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	生理学は、人体の構造がどのように働いて生命を維持しているかを学ぶ学問で、解剖学と対をなしており、病気を理解する為にも必要な基礎学問である。 動物生理学では、人の運動、行動を制御する神経、筋運動、感覚という「動物性器官」の機能について学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 興奮発生と伝導のメカニズムについて説明できる 2. 筋肉の構造と筋収縮のメカニズム、筋肉のエネルギー利用について説明できる 3. シナプス伝達のメカニズムについて説明できる 4. 自律神経系の構築と臓器支配の様相について説明できる 5. 運動系の制御メカニズムについて説明できる 6. 感覚の種類と感覚の発生メカニズムについて説明できる 7. 脳の構造を理解し、高次神経活動について説明できる 		
教科書	生理学テキスト第7版 大地陸男著 文光堂		
参考書	よくわかる生理学の基礎 メディカルサイエンス 病状の基礎からわかる病態整理 メディカルサイエンス ギヤノング生理学 原書22版 丸善 標準生理学 第7版 医学書院		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	活動電位、イオンチャネル①	講義
2	活動電位、イオンチャネル②	講義
3	骨格筋の収縮①	講義
4	骨格筋の収縮②	講義
5	シナプス伝達	講義
6	自律神経系	講義
7	運動系①	講義
8	運動系②	講義
9	体性感覚①	講義
10	体性感覚②	講義
11	味覚、嗅覚	講義
12	聴覚、前庭感覚	講義
13	視覚	講義
14	脳の統合機能①	講義
15	脳の統合機能②	講義

講義要項

科目	運動学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義2単位・60時間
概要	身体運動の基礎を成す自然科学(自然化学)、解剖学、生理学を踏まえ、生体力学的アプローチの観点から身体運動を捉えるとともに、動作・姿勢・運動発達・運動学について学習する。		
目標	リハビリテーション医学を学ぶ上で必須となる身体運動に関する知識を深める。 1. 力学の基礎が説明できる 2. 筋収縮の種類と特徴が説明できる 3. 関節運動の種類とそれに伴う筋活動が説明できる 4. 正常な基本動作のパターンや正常歩行が説明できる 5. 正常な運動発達及び原始反射、誘発反応が説明できる 6. 運動学習理論を理解し、パフォーマンスが改善されるしくみが説明できる		
教科書	基礎運動学 第6版 補訂版 中村隆一 医歯薬出版株式会社		
参考書	日本人体解剖学 上下巻 改訂19版 金子丑之助 南山堂 生理学テキスト 病気がみえる 脳・神経 医療情報科学研究所 メディックメディア 筋骨格系のキネシオロジー 第2版 嶋田智明 医学書院		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	総論・運動学を学ぶ意義・力学の基礎・力学の人体への応用(バイオメカニクス)	講義
2	姿勢①(人体の重心・支持位底面)	講義
3	姿勢②(各姿勢と重心・重心線)	講義
4	姿勢③(安定性の要因・抗重力筋)	講義
5	関節運動・筋収縮(関節運動の法則・筋収縮様式)	講義
6	関節運動と筋活動 上肢① 肩甲帯・肩	講義
7	関節運動と筋活動 上肢② 肩関節	講義
8	関節運動と筋活動 上肢③ 肘関節	講義
9	関節運動と筋活動 上肢④ 手関節・手部	講義
10	関節運動と筋活動 上肢⑤ 手の機能	講義
11	関節運動と筋活動 下肢① 骨盤・股関節	講義
12	関節運動と筋活動 下肢② 骨盤・股関節	講義
13	関節運動と筋活動 下肢③ 膝・足関節	講義
14	関節運動と筋活動 下肢④ 膝・足関節	講義
15	関節運動と筋活動 下肢⑤ 足関節・足の機能	講義
16	関節運動と筋活動 体幹・胸郭①	講義
17	関節運動と筋活動 体幹・胸郭②	講義
18	関節運動と筋活動 体幹・胸郭③	講義
19	姿勢と動作①(バランス)	講義
20	姿勢と動作②(姿勢保持の反射・反応)	講義
21	姿勢と動作③(基本動作のパターン)	講義
22	歩行①(歩行・歩行周期・重心移動)	講義
23	歩行②(各関節の角度変化、筋活動時期)	講義
24	歩行③(各関節の角度変化、筋活動時期)	講義
25	歩行④(小児・高齢者の歩行、走行)	講義
26	歩行⑤(異常歩行)	講義
27	体力・エネルギー代謝	講義
28	運動学習①(学習と記憶、学習理論)	講義
29	運動学習②(運動学習の諸理論)	講義
30	運動学習③(運動と訓練・運動学習効果)	講義

講義要項

科目	人間発達学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	国家試験(「人間発達学」分野)に必要な知識を身に着けつつ、心理学を探究することを目指す。		
目標	1. 胎生期から児童期の発達を理解し説明ができる 2. 学童期および思春期の発達を理解し説明ができる 3. 青年期から老年期の発達ならびに変化を理解し説明ができる 4. 障害児の発達ならびに検査法を理解し説明ができる		
教科書	リハビリテーションのための人間発達学 メディカルプレス		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション・発達の定義	講義
2	胎児期の発達(受精から出産まで) 身体機能の発達(体格・骨・歯)	講義
3	運動機能の発達(反射・反応) 認知精神機能の発達(知能・パーソナリティ)	講義
4	小児期(乳児～児童期)の粗大運動の発達	講義
5	小児期(乳児～児童期)の微細運動の発達	講義
6	小児期(乳児～児童期)の言語の発達①	講義
7	小児期(乳児～児童期)の言語の発達②	講義
8	小児期(乳児～児童期)の心理社会的発達①	講義
9	小児期(乳児～児童期)の心理社会的発達②	講義
10	学童期および思春期の発達(体格・性徴・心理・社会) 青年期の発達(体格・性徴・心理・社会)	講義
11	成人期の変化(身体構造・生理機能・心理・社会) 高齢期の変化(身体構造・生理機能・心理・社会)	講義
12	発達障害・検査法	講義
13	試験対策①	講義
14	試験対策②	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	病理学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	病理学とは正常と病気について形態的な違いを比較し、病気の本態を理解する学問である。 本講義では、臓器、組織、細胞レベルの画像を用い、病気の本態を学習する。 また、形態的变化と機能、病気の成り立ちについて、病理学的な考え方を学ぶ。		
目標	1. 主な病気の定義を説明できる 2. 主な病気の成り立ちや特徴について説明できる 3. 病理学を用いて病気を理解する方法を身につける		
教科書	入門病理学 南山堂		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	病気と病理学 基礎知識	講義
2	退行変性病変1(萎縮・変性)	講義
3	退行変性病変2(壊死・その他)	講義
4	進行性病変1(肥大・過形成)	講義
5	進行性病変2(化生・再生・その他)	講義
6	腫瘍1(概要)	講義
7	腫瘍2(一般臓器・小児腫瘍・脳腫瘍)	講義
8	循環障害1(血栓・塞栓・梗塞・先天異常)	講義
9	循環障害2(虚血・充血・出血・浮腫)	講義
10	循環障害3(うっ血と副経路・リンパ) 中枢神経の病理	講義
11	炎症1(概要)	講義
12	炎症2(滲出性炎・肉芽腫性炎)	講義
13	免疫1(免疫反応)	講義
14	免疫2(免疫の異常)	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	臨床心理学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	理学療法・作業療法対象者の心理的特徴や心的作用、その検査法および心理療法について修得する。		
目標	1. 臨床心理学の歴史・全体像について知っている 2. ライフサイクルにおける発達課題について説明できる 3. 障害受容の過程について説明できる 4. 防衛機制について説明できる 5. 防衛機制について説明できる 6. 心理療法の種類とその方法について説明できる		
教科書	よくわかる臨床心理学 下山晴彦編 ミネルヴァ書房		
参考書	心理療法ハンドブック 乾 吉佑・亀口 憲治・東山 紘久・氏原 寛・成田 善弘 編 創元社		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	臨床心理学とはなにか	講義
2	臨床心理学の基礎① 一般心理学と精神分析、分析心理学	講義
3	臨床心理学の基礎② ライフサイクルに応じた発達課題と心的問題	講義
4	臨床心理学の基礎③ 障害者心理と障害受容、心の構造と防衛機制	講義
5	心理アセスメント① 知能検査、質問紙法	講義
6	心理アセスメント② 投影法	講義
7	心理療法① 総論	講義
8	心理療法② 精神分析的な心理療法	講義
9	心理療法③ ユング派の心理療法	講義
10	心理療法④ クライアント中心療法	講義
11	心理療法⑤ 認知療法と行動療法	講義
12	心理療法⑥ 集団療法	講義
13	心理療法⑦ 芸術療法と遊戯療法	講義
14	心理療法⑧ ロールプレイ	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	内科学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	内科系の主な疾患について、解剖学、生理学とのつながり(病態整理)を中心に学ぶ。 リハビリテーション対象疾患を中心に、詳細な病態と主な評価、検査、治療、リスク管理を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科系の障害を生じる疾患や症候群の病態と症状が説明できる 2. 内科系の障害を生じる疾患や症候群の疫学、予後が説明できる 3. 内科系の障害を生じる疾患や症候群の検査結果を説明、解釈できる 4. 内科系の障害を生じる疾患や症候群の一般的治療が説明できる 5. リハビリテーション実施にあたり、内科系の疾患や症候群にともなうリスク、留意事項が説明できる 		
教科書	標準理学療法・作業療法学 内科学 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	循環器疾患①(心筋梗塞、狭心症、弁疾患、心筋症、不整脈)	講義
2	循環器疾患②(心筋梗塞、狭心症、弁疾患、心筋症、不整脈)	講義
3	循環器疾患③(動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、バージャー病、高血圧、深部静脈血栓)	講義
4	呼吸器疾患①(呼吸不全Ⅰ型、Ⅱ型、急性と慢性)	講義
5	呼吸器疾患②(閉塞性肺疾患、慢性気管支炎、肺気腫、喘息)	講義
6	呼吸器疾患③(拘束性肺疾患、間質性肺炎、肺気腫、喘息)	講義
7	消化器疾患①(消化器出血、癌、胃潰瘍、潰瘍性大腸炎)	講義
8	消化器疾患②(腸閉塞、肝炎、肝硬変)	講義
9	代謝・内分泌疾患①(糖尿病、メタボリックシンドローム)	講義
10	代謝・内分泌疾患②(糖尿病、メタボリックシンドローム)	講義
11	血液・造血器疾患	講義
12	腎・泌尿器疾患①(腎不全、腎炎、ネフローゼ症候群)	講義
13	腎・泌尿器疾患②(排尿障害、尿路結石、尿路感染症)	講義
14	免疫疾患、感染症疾患、中毒①(膠原病、リウマチ、ベーチェット病、シェーグレン症候群、アレルギー)	講義
15	免疫疾患、感染症疾患、中毒②(細菌、梅毒、ウイルス、院内感染、寄生虫)	講義

講義要項

科目	整形外科	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	骨関節障害を生じる主な疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療、リスク、および理学療法への展開(リスク管理含む)について学ぶ。		
目標	1. 骨関節障害を生じる主な疾患名を説明できる 2. 骨関節障害を生じる主な疾患の病態、病態、症状、疫学、予後、経過、評価・検査、一般的治療、リスクを説明できる 3. 骨関節障害を生じる主な疾患の病態整理から理学療法への展開(リスク管理含む)を説明できる		
教科書	標準整形外科 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	変形性関節症	講義
2	骨折および脱臼	講義
3	関節リウマチとその近縁疾患	講義
4	スポーツ障害	講義
5	脊椎疾患(椎間板ヘルニア、腰痛、頸部痛などを含む)	講義
6	脊髄損傷	講義
7	切断	講義
8	肩関節周囲炎および腱板損傷	講義
9	絞扼性末梢神経障害(胸郭出口症候群など)	講義
10	慢性疼痛疾患	講義
11	骨粗鬆症	講義
12	骨端部疾患	講義
13	先天性疾患(先天性股関節脱臼など)	講義
14	骨・軟部腫瘍	講義
15	熱傷	講義

講義要項

科目	神経内科学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	神経障害を生じる主な疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療、リスク、および理学療法への展開(リスク管理含む)について学ぶ。		
目標	1. 神経障害を生じる主な疾患名を説明できる 2. 神経障害を生じる主な疾患の病態、症状、疫学、予後、経過、評価・検査、一般的治療、リスクを説明できる 3. 神経障害を生じる主な疾患の病態整理から理学療法への展開(リスク管理含む)を説明できる		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 医学書院 病気がみえる 脳・神経 メディックメディア		
参考書	ベッドサイドの神経の診かた 南山堂		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	神経学的診断法(神経学的診断と評価・神経学的検査法) 神経症候学(運動麻痺・錐体路徴候・筋萎縮)	講義
2	神経症候学(錐体外路徴候・不随意運動・運動失調・感覚障害)	講義
3	神経症候学(高次脳機能障害・構音障害・嚥下障害)	講義
4	脳血管障害(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・脳外傷)	講義
5	脳血管障害(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・脳外傷)	講義
6	脳血管障害(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・脳外傷)	講義
7	感染・炎症性疾患(髄膜炎・脳腫瘍・脳炎)	講義
8	変性疾患(パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症・認知症)	講義
9	変性疾患(パーキンソン病・脊髄小脳変性症・筋萎縮性側索硬化症・認知症)	講義
10	脱髄疾患(多発性硬化症・ギランバレー症候群・正常圧水頭症)	講義
11	腫瘍(脳腫瘍・脊髄腫瘍)	講義
12	末梢神経・筋疾患(多発神経炎・重症筋無力症・多発筋炎・筋緊張症)	講義
13	てんかん・頭痛	講義
14	感覚器系障害 視覚障害(白内障・緑内障)聴覚障害(難聴)平衡感覚障害	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	精神医学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	主な精神障害および疾病の症状とそれに対する一般的な治療について習得する。		
目標	1. 精神医学的症候の種類とその内容について説明できる 2. 代表的な精神科治療(薬物療法など)について説明できる 3. 各精神疾患の特徴(原因・病態・経過など)を説明できる 4. 各精神疾患の特徴を踏まえた上での一般的な治療・対処法について説明できる 5. ライフサイクルにおける各期の精神障害の特徴を知っている 6. 精神医学の歴史や関連する法律・制度について説明できる		
教科書	標準理療学療法学・作業療法学：専門基礎分野 精神医学 上野武治編集 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容：

回数	内容	学習法
1	精神医学の歴史 精神科領域に関連する法律・制度	講義
2	ライフサイクル(小児期、青年期、成人期、老年期)における精神障害の特徴	講義
3	精神医学的症候について	講義
4	精神医学的症候について	講義
5	統合失調症の特徴と治療	講義
6	統合失調症の特徴と治療	講義
7	気分(感情)障害(躁うつ病・うつ病)の特徴と治療	講義
8	気分(感情)障害(躁うつ病・うつ病)の特徴と治療	講義
9	器質的精神障害(認知症など)の特徴と治療	講義
10	精神症性障害(不安神経症・パニック障害など)の特徴と治療	講義
11	精神作用物質(アルコール・薬物)使用による精神および行動の障害の特徴と治療	講義
12	摂食障害・人格障害の特徴と治療	講義
13	てんかん・適応障害・PTSDの特徴と治療	講義
14	精神遅滞・発達障害の特徴と治療	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	生化学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	細菌やウイルス、薬物、疾病などが、体内にどのような影響を及ぼすのかを学ぶ。 生体内のメカニズムと反応を知るとともに、臨床検査結果(数値)と合わせて学習する。		
目標	生理・解剖学と病理学の知識を生かし、生体の異常反応のメカニズムと検査結果を統合して理解することが出来る。 生体の症状とあわせてイメージすることが出来る。 1. 正常な生体反応を理解している 2. 代表的な異常反応を、検査データから判断することができる		
教科書	系統看護学講座 別巻6 臨床検査 奈良信雄編 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	総論(臨床検査と生化学)	講義
2	代謝とは(生化学の基礎知識)	講義
3	検査データ(血液一般)	講義
4	検査データ(血液凝固)	講義
5	検査データ(糖代謝と糖尿病)	講義
6	検査データ(脂質代謝と脂質異常症)	講義
7	検査データ(蛋白質、核酸の代謝と代謝異常)	講義
8	検査データ(心機能 心電図の読み方)	講義
9	検査データ(呼吸機能 呼吸器疾患と検査値)	講義
10	検査データ(pH 正常値と異常値)	講義
11	検査データ(中枢神経系 脳卒中で留意すべきデータ)	講義
12	検査データ(免疫の基礎知識)	講義
13	検査データ(感染症と標準予防策について)	講義
14	検査データ(リウマチ、自己免疫について)	講義
15	まとめ	講義

講義要項

科目	小児科学	担当講師	
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	臨床で見られる小児科領域における各種疾患、症状、リハビリテーションを含めた治療法について、基本的な知識を学習する。		
目標	小児領域における、代表的な疾患、ならびに症状、治療法について説明できる。		
教科書	標準理学療法作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第3版 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	骨・関節疾患(先天性股関節脱臼・小児骨折・くる病など)	講義
2	循環器疾患	講義
3	呼吸器疾患	講義
4	消化器疾患	講義
5	内分泌・代謝疾患	講義
6	血液疾患・悪性腫瘍性疾患	講義
7	免疫・アレルギー・喘息	講義
8	腎・泌尿器系・生殖器疾患	講義
9	急性疾患(SIDSなど)と感染症(脳炎・髄膜炎・その他細菌／ウイルス性)	講義
10	中枢神経先天奇形(無脳症・二分脊髄・小脳症・水頭症)・てんかん	講義
11	中枢神経系疾患①脳性麻痺・重症心身障害児	講義
12	中枢神経系疾患②筋ジストロフィー	講義
13	知的障害を伴う疾患①(ダウン症・知的障害／精神遅滞・ADHDなど)	講義
14	知的障害を伴う疾患②(学習障害(LD)・自閉症／広汎性発達障害／アスペルガー)	講義
15	心身医学疾患(チック・不登校・虐待)	講義

講義要項

科目	老年医学	担当講師	
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	老化に伴う機能・心理の変化と疾病の関係、高齢者をめぐる社会的問題などを総合的に学習する。		
目標	1. 老化について説明できる 2. 加齢に伴う変化について説明できる 3. 老年症候群について説明できる 4. 高齢者のリハビリテーションの現状が説明できる		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 老年学 第4版 大内尉義編集 医学書院		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	総論(高齢者および老化の定義・日本の高齢化の現状)	講義
2	老年期の健康と栄養	講義
3	加齢による生理機能・運動機能・精神心理面の変化	講義
4	老年症候群(概念および代表的な老年症候群)1	講義
5	老年症候群(概念および代表的な老年症候群)2	講義
6	老年期における精神疾患、睡眠障害	講義
7	加齢に伴う生理機能の変化とその疾患(循環器・呼吸器)	講義
8	加齢に伴う生理機能の変化とその疾患(神経系・感覚器)	講義
9	加齢に伴う生理機能の変化とその疾患(内分泌・代謝)	講義
10	加齢に伴う生理機能の変化とその疾患(消化器)	講義
11	加齢に伴う生理機能の変化とその疾患(免疫・皮膚疾患)	講義
12	加齢に伴う運動機能の変化とその疾患1	講義
13	加齢に伴う運動機能の変化とその疾患2	講義
14	高齢者のリハビリテーション1	講義
15	高齢者のリハビリテーション2	講義

講義要項

科目	一般臨床医学	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	後期・講義1単位・30時間
概要	一般的な疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療について学ぶ。		
目標	1. 各疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的治療について知っている 2. 各疾患のリハビリテーション実施時のリスクを説明できる		
教科書	PT・OTのための一般臨床医学第2版 医歯薬出版		
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	外科総論1	講義
2	外科総論2	講義
3	脳神経外科総論1	講義
4	脳神経外科総論2	講義
5	画像診断総論1(X線、CT)	講義
6	画像診断総論2(MRI)	講義
7	耳鼻咽喉科疾患	講義
8	眼疾患	講義
9	皮膚疾患	講義
10	泌尿器・生殖器疾患	講義
11	婦人科・産科疾患1	講義
12	婦人科・産科疾患2	講義
13	臨床で起こりうる現象①	講義
14	臨床で起こりうる現象②	講義
15	救命救急医療総論	演習・実習

講義要項

科目	予防作業療法学	担当講師	
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	「予防医学」、「予防リハビリテーション」の概念を理解し、少子高齢社会における健康寿命の延長や老老介護、認知介護の増加を緩和するために作業療法士ができることを考える基礎とする。作業療法の適応範囲を検討し、作業療法の発展、進展のための足掛かりとする。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予防とはなにかが説明できる 2. 介護分野における作業療法士の役割が説明できる 3. 予防作業療法の領域とその概要を説明できる 4. 予防給付のながれ(対象者抽出からサービス提供まで)が説明できる 5. 介護予防事業の内容を身体機能、生活行為ごとに整理して説明できる 6. クライエントの作業に焦点をあてた介護予防の介入を具体的に検討し、自分で結論が出せる 		
教科書	国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
参考書	適宜資料を配布		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	予防とは(健康寿命、一次・二次・三次予防 作業療法士の役割) 予防作業療法の領域と概念(健康増進、生活習慣病予防、疾病予防、産業保健領域、介護予防、三次予防)	講義
2		
3	健康増進、生活習慣用予防、疾病予防について	講義
4	健康増進、生活習慣用予防、疾病予防について	講義
5	公衆衛生学との重複部分確認、予防医学、予防リハビリテーションの範囲と対象、科目で扱う内容の確認、作業療法との関係確認	講義
6	介護予防について(介護予防の定義と意義、2次予防事業の対象者)	講義
7	介護予防について(介護予防ケアマネジメント、アセスメント)	講義
8	介護予防事業の実際(通所型・訪問型)	講義
9	予防給付の流れと対象とする機能の概観(運動器、栄養、口腔機能、閉じこもり予防、認知機能、うつ予防)	講義
10	介護予防事業の内容 運動器の機能向上について	講義
11	介護予防事業の内容 栄養改善について	講義
12	介護予防事業の内容 口腔機能向上について	講義
13	介護予防事業の内容 閉じこもり予防について	講義
14	介護予防事業の内容 認知機能低下予防について	講義
15	介護予防事業の内容 うつ予防について	講義

講義要項

科目	基礎臨床医学	担当講師	
対象学年	第2学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	作業療法と関わりの深い代表疾患や各種合併症を切り口に、機能障害の病態生理、回復過程を学ぶ。 それにより、作業療法評価や治療につなげる。		
目標	1. 機能障害の病態生理について理解し説明できる 2. 機能回復過程について理解し説明できる 3. 代表的合併症の病態生理について理解し説明できる 4. 代表疾患の病態生理について理解し説明できる		
教科書			
参考書			
学習評価	提出課題及び筆記試験合わせて60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	脳血管障害(代表疾患の病態生理)	講義
2	脳血管障害(脳の機能局在と高次脳機能障害)	講義
3	脳血管障害(中枢神経障害における脳機能回復のメカニズム)	講義
4	認知症(疾患の病態生理)	講義
5	認知症(疾患の病態生理)	講義
6	脊髄損傷(疾患の病態生理)	講義
7	脊髄損傷(褥瘡の発生機序、自律神経障害の発生機序)	講義
8	末梢神経損傷(疾患の病態生理)	講義
9	骨折(疾患の病態生理)	講義
10	骨折(筋軟部組織、骨・軟骨・関節の損傷と治癒過程)	講義
11	リウマチ(疾患の病態生理)	講義
12	循環器疾患(高血圧・心筋梗塞・動脈硬化症など)	講義
13	呼吸器疾患(COPDなど)	講義
14	統合失調症	講義
15	気分障害(うつ病・うつ状態)	講義

講義要項

科目	リハビリテーション概論	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	前期・講義1単位・30時間
概要	医学的リハビリテーションを中心としてリハビリテーションの理念、歴史の変遷、その種類、障害構造と生活機能分類(ICF)について学ぶ。		
目標	1. リハビリテーションの意味・目的について説明できる 2. 急性期、回復期、維持期のリハビリテーションアプローチについて説明できる 3. 医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーションについて説明できる 4. 障害構造論と生活機能分類について説明できる 5. 障害受容とその過程について説明できる 6. リハビリテーションの将来像について説明できる		
教科書			
参考書			
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考	グループ活動、提出物		

講義内容:

回数	内容	学習法
1	コースオリエンテーション リハビリテーションの定義・概念	講義
2	リハビリテーションの歴史	講義
3	障害構造論 ICIDHについて	講義
4	生活機能分類について ICFについて	講義
5	生活機能分類について ICFについて	講義
6	生活機能分類について ICFについて	講義
7	生活機能分類について ICFについて	講義
8	リハビリテーションについて(時期的分類について①)	講義
9	リハビリテーションについて(時期的分類について②)	講義
10	リハビリテーションについて(時期的分類について③)	講義
11	リハビリテーションについて(時期的分類について④)	講義
12	リハビリテーションアプローチについて (時期的・分野的分類で行うこと)	講義
13	リハビリテーションアプローチについて (時期的・分野的分類で行うこと)	講義
14	障害受容	講義
15	リハビリテーションの歴史展望 まとめ	講義

講義要項

科目	保健医療福祉制度概論	担当講師	
対象学年	第1学年	時期・単位数・時間数	通年・講義1単位・30時間
概要	人間社会を取り巻く社会環境を理解した上で、社会保障制度の全体的枠組み、医療保険制度、介護保険制度および障害者総合支援法などの制度と経済的な観点を養う。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の社会環境(人口統計など)を読み取り、説明できる 2. 日本の社会保障の目的・機能・特徴・変遷について説明できる 3. 医療保険制度、診療報酬制度の仕組みについて説明できる 4. 介護保険制度で受けられるサービス、およびサービス利用までの流れについて説明できる 5. 障害者総合支援法で受けられるサービス、およびサービス利用までの流れについて説明できる 		
教科書	標準作業療法学 地域作業療法学(第2版) 医学書院		
参考書	公衆衛生がみえる メディックメディア 作業療法学ゴールドマスター・テキスト9 地域作業療法学・老年期作業療法学・老年期作業療法学		
学習評価	筆記試験60%以上で合格とする。 ただし、提出課題、平常の学習態度及び出席状況等を考慮し総合的に評価する。		
備考			

講義内容:

回数	内容	学習法
1	オリエンテーション 日本の社会環境(人口統計など)について	講義
2	日本の社会保障制度	講義
3	医療保険制度①(医療保険制度とは、制度の仕組み)	講義
4	医療保険制度②(医療保険の類分、医療保険の給付の種類と内容)	講義
5	医療保険制度③(診療報酬制度の仕組み、高額療養費制度・後期高齢者医療制度)	講義
6	医療保険制度④(医療保険制度に関するグループワーク)	講義
7	介護保険制度①(介護保険とは、導入までの背景、制度の概要・目的・仕組み)	講義
8	介護保険制度②(サービス利用までの流れ、各サービスの種類・内容)	講義
9	介護保険制度③(地域支援事業、地域包括ケアシステム、成年後見制度)	講義
10	介護保険制度④(介護保険制度に関するグループワーク)	講義
11	障害者総合支援法①(障害者福祉の考え方、障害者福祉に関する法律)	講義
12	障害者総合支援法②(導入までの背景、サービス利用までの流れ)	講義
13	障害者総合支援法③(各サービスの種類・内容)	講義
14	障害者総合支援法④(障害者総合支援法に関するグループワーク)	講義
15	まとめ(ケーススタディ)	講義